

令和3年度 第2回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日時 令和3年10月6日(水) 午前10時から午前12時まで
- 2 場所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
堀切 正人 会長、海野 美枝 委員、杉山 昌之 委員、
野田 修 委員、弓削 幸恵 委員、木村 貴子 委員、
渋江かさね 委員、木山 克彦 委員、伊熊 修 委員、
鈴木 杏佳 委員 (全10名)
(事務局)
本野 雄一郎 文化財課長
文化財課(登呂博物館)
芹澤担当課長兼登呂博物館長、梶山主査、國島主任主事
中村主任主事、朝賀主任主事、宮崎主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事記録 1 文化財課長挨拶
2 会長及び職務代理者選任
3 議事
(1) 令和3年度上半期までの事業報告
(2) 令和4年度の事業予定について
(3) 議題「コロナ禍における安心・安全な登呂博物館運営の在り方」
- 6 議事内容
- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 事務局 | 開会 |
| 本野文化財課長 | 開会にあたっての挨拶 |
| 事務局 | 資料確認・委員委嘱に係る連絡事項 |
| 委員 | 自己紹介 |
| 事務局 | 会長・職務代理者の選任
会長：堀切委員 職務代理者：渋江委員に決定 |
| 会長 | 議事録の公開の確認・署名者の選任 |
| 事務局 | 登呂博物館の概要 説明 |

事務局 令和3年度の事業報告 説明
 令和4年度の事業について 説明
会長 委員に対し、質疑があれば発言するよう依頼

※以下、議題「コロナ禍における安心・安全な登呂博物館運営の在り方」について各委員からの提案や質問を要約して記載しています。

(堀切会長)

それぞれ非常に魅力的な企画展だと思うのですが、令和5年度に駿府城公園の中に歴史文化施設ができ、静岡市内ではおそらく初めての本格的な歴史系の博物館が誕生するということになると思いますが、この登呂博と新しい歴史文化施設との役割分担や連携など現時点でお話は出ていますか。

(事務局)

歴史文化施設では、中世以降、今川・徳川・東海道というような時代、有史以降が展示のテーマとしてなってくるので、登呂遺跡については、旧石器以降、縄文時代、弥生時代、古墳時代という古代のほうをメインとするようなことで静岡市の歴史というものが繋がるのではないかと考えております。

(堀切会長)

考古はこちらで、歴史は向こうでと、単純に分けてしまうよりうまく相乗効果で連携してやっているとよりいいのかなと思います。

皆さん、他にいかがでしょうか。実験考古学の場合としての可能性というのも、非常にそそられると思うのですが、木山先生いかがでしょう。

(木山委員)

復元水田の活用は、もちろん今までやってらっしゃったドロん子パークなり、生物観察なりという感じで、すごく身近に感じるような普及活動というのがうまくいっていると思う一方で、もう少し専門的なところをアプローチしたいというところで、非常にいい企画になると思います。

(堀切会長)

ありがとうございます。皆様、他に何かございませんか。

(弓削委員)

来年も色々な催しがあり、最後のメインのところ、弥生時代のお墓ということが出てきていて、登呂遺跡の発掘調査では未確認と書いているので、なかったものについてメインで取り上げるというのもなかなかだなと思います。今までイメージしていなかった広がりがある内容だと思いますが、これを取りあげられた意図など今の段階でわかることがあれば教えてください。

(事務局)

登呂遺跡のお墓・埋葬行為であったり、当時の葬送儀礼というものについて、謎の一つということで、博物館のボランティアの皆さんも、是非ここについては一度企画展をやりたいと、ニーズも高まっています。これまで各種企画展をやっている中では、登呂遺跡から出てきたもので語っているというところが大きかったです。今後の展開としまして、一つはこの静岡平野の中で見たときの登呂遺跡、全国の中での登呂遺跡、もしくは縄文時代・古墳時代と比較する中での登呂遺跡というような相対的な比較等をしながら、登呂遺跡のあった集落というのはどういう集落だったのかということについて、文化財課を挙げて埋蔵文化財係等と協力タッグを組みながらの挑戦というところで、こうした企画を立てさせていただいております。

(弓削委員)

日本の中、世界の中ではどうなのかといった、相対的な比較はすごく役に立つのかなと思いました。そして、静岡だと関連で「あいねっと」さんとか、民間の方とコラボできるおもしろい企画に発展したらいいのかなと思いました。

(堀切会長)

記念すべき50周年の記念展で、あえてお墓というテーマを持ってくる。なかなか野心的で、だからこそ逆に可能性を感じさせられるのではないかと思います。是非がんばってください。次、市民委員の伊熊さんお願いします。

(伊熊委員)

歴史文化施設の開館後、静岡の駿府城公園に来たお客さんを、登呂遺跡のほうに回す工夫が必要ではないかと。例えば臨時バスで巡回させるとか、歴史文化施設の開館と、こちらの50周年の記念を上手に連携させてほしいです。そのための魅力を皆さんで一年かけて、色々アイデアを出していければいいのではないかと思います。今ある静岡市の原点が登呂遺跡にありますので、お祭りにしても奈良・平安時代のことにしても、それが今川義元・氏真と徳川家康に繋がって、今の令和に繋がると。令和5年1月に、2000年前にまたタイムスリップするような、そういう魅力を仕掛けていけたらいいなと感じています。

(堀切会長)

令和4年度あたりからやっていかなきゃいけないだろうと思いますね。

(海野委員)

歴史文化施設との連携をうまくしていくといいと思いました。お祭りに関しては、多分同じようにこういった祭祀儀礼を色濃く残すお祭りのある都市と、姉妹都市みたいな形で連携して観光の面において全国で牽引していくようなお祭りに育てていく部分かと思いました。

(堀切会長)

お祭りとは何かというところを深めていただければと思います。登呂の歴史の重さ、厚さを踏まえつつの現代的なお祭りとして色々可能性が広がるのではないかなと思いますね。よろしくお願いします。

続きまして、今回のメインの議題である「コロナ禍における安心・安全な登呂博物館運営のあり方」について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

令和元年12月から2年間にわたり議論いただいた「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂博物館運営のあり方」ということで、前委員の皆様にはご協議いただいて、親しむ・学ぶ・関わる、その上に発信するというものが配置され、これが循環することによって、多くの市民が登呂博物館を誇りに思うことに結

び付いていくというご意見をいただきました。ただ、その間に新型コロナウイルス感染症に伴う色々な制限がある中で、参加型・体験型を謳っている登呂博物館として、どのような運営をしていったらいいのか。入館者数は前年の40%減ぐらいになっており、非常に減ることは寂しいなと思う毎日です。登呂博物館は、展示資料を見るだけではなく、弥生人になりきって、弥生時代の生活状況を実体験して、より深い学びに繋げる、参加・体験型ミュージアムです。火起こし体験は、10月からは、学校団体に限っては代表者ができるというようにしております。土器炊飯は飲食を伴うので、できません。貫頭衣の試着も、布の消毒等が難しいのでできません。生物観察は採ってきたものをホールで、皆で特定させるということをやりましたので、定員は全部絞ることになりました。拓本体験も限られた道具を使いまわす工程があるため、やれていません。その他も中止が多くなっております。このような中で、一足飛びに新型コロナウイルス感染症が収束すると思えないものですから、委員の皆様それぞれの現場において、このような工夫をして、こういう対応をしていますというお知恵を拝借しながら、今回は諮問という形ではなく皆様から是非助言等をいただけたらと思ひ、この議題を挙げさせていただきました。現在、入館者制限、団体の予約は100名までで1日4サイクル、1団体1時間ということでやっております。そして、施設の出入口を一方通行とし、この広場へ向かう方へ向けていくようにしております。入口の体温検知は、どこの施設においても導入されているかと思ひます。そちらで消毒液も置いております。また、館内には空気清浄機を各所において、循環させるようにしております。このような対策をしておりますが、体験メニューをもっと増やしていけるように、または、全然違った視点から何かアドバイスをいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

(堀切会長)

それぞれの立場とか現場での取り組み方、感想等、自由にご発言いただければと思ひます。杉山先生、学校も色々ご苦労されていると思ひますが、学校の状況を簡単にご説明いただければと思ひますが、いかがでしょうか。

(杉山委員)

感染症対策ですが、例えば、合唱とか調理実習みたいなものについてはでき

るだけ避ける、コロナの陽性者はいつどこで出るかわからないので、結果として学校の中で濃厚接触者を出さない取り組みが最終的に究極的な取り組みだと思っています。博物館もやるべき感染対策は一緒ですよね。この登呂博物館に関しても、来た人が安心できる状況で進めるしかないので、今はやはり市民が来たときに、入口に消毒、検温があって、間隔が空いていて、密にならないような工夫がされている。心配があるものは控えているということが市民にきちんと伝わっていて、安心して利用できる状態であれば、それでいいのではないかなと思います。博物館に来てくれなくても、登呂博物館の状況を、Google のストリートビューみたいに登呂博物館の入口から入って、こうやって見ていくと、展示室をこうやって行けるようなものを作るとバーチャルで博物館を見られますよね。「よし、ひと段落したら是非行ってみたいな」となるような、そういうのを溜めておく時期だと考えてもいいかなと思っています。

(堀切会長)

ありがとうございました。おそらく、児童生徒さんにも色々な実習的な体験的なことをさせてあげたいが、なかなかできないというジレンマもお抱えと思いますが、その辺りも踏まえて野田先生、いかがでしょうか。

(野田委員)

小学校では、感染症対策が結構厳しくて、この緊急事態宣言解除までは、ほとんどの行事を縮小、もしくは中止というのが実際のところだと思います。外の施設に出るというのも、中止、延期にした学校もかなりあるのかなと思っています。本校においては、5年生で行う田植え体験が限度なのかなと思っています。ただ、緊急事態宣言も解除されましたし、ワクチンの広がり等もありますので、子どもの活動については徐々に広げていく予定です。学校内においても、例えば、調理実習は場面によって、時間を制限することで実施していくでとあるとか、歌も時間とやり方を考えて実施の方向に移っていますので、博物館においても、人数等制限しながらやれる範囲のものはやっていく方向でいいと思っています。

縄文・弥生時代の学習をすると、その代表的な遺跡ということで、教科書に登呂遺跡が必ず載っていました。ところが、縄文の三内丸山とか、特に弥生の

吉野ヶ里遺跡が出てきてしまってから、集落を柵で囲っているとか、物見やぐらがあるとか、農耕プラス国同士の争いがあったなどの情報更新に伴い、大規模な復元があったりして、教科書にも資料集にも登呂遺跡が出ていない状況なのですね。登呂遺跡は、弥生時代の有名な遺跡であるということが前提として話が進んでいるように見えますが、もうそういう状況ではないというところに、立ち位置を変えられた方がいいのかなと。そのためには、少なくとも静岡市、特に駿河区のお子さんには知ってもらう、体験してもらうことが一番のポイントになるのかなと思います。小学校の教育課程から考えると、一番面白いのは田植えでしょうけれど、現状、田植えをして終わりです。どういうふうに稲穂が実っているかとか、または収穫体験などはやらない。例えば、ライブカメラで成長の度合いが見られるとか、収穫が直接できなければ遠隔で代表の方が収穫しているところを、うまいこと社会科の授業とかに繋げるとか、そういったやり方も、コロナだから逆に活かせる方策かなと思っています。

(堀切会長)

ありがとうございます。今できないという状況の中で、ネットなどを使った疑似的な体験の仕方・やり方をまたご検討いただければと思います。もう一つは、登呂はもうそんなに有名じゃないという厳しい現状意識が必要だろうということ。木村委員はPTAの顧問をされていらっしゃるということですが、保護者の立場からどのように状況を考えていらっしゃるのでしょうか。

(木村委員)

コロナ禍になってから、ほとんどPTA活動がやれていない状況です。私は、製造業の会社に勤めていますが、少し前までは、3割出社で7割在宅勤務ということで、強制的に人数を割り振られて、人数調整をしてきました。共用の場所もなるべく時間が重ならないようにロッカーも時差出勤等で、うまく使い分けるといふ形、なるべく密にならないような環境を作って仕事をしていました。登呂博物館については、屋外でやるものに関しては、人数を絞ってなるべく開催ができるようになったらいいなということと、予約制の形で受け入れをするようなイベントを作って欲しかったらと思います。ライブ配信を使って講演会もネットで聴講ができるような形のもの、自宅でも参加ができるような企画を

していただけたら、親子で休みの日に家で一緒に楽しむことができるのかなと思います。

(堀切会長)

色々な教育施設、博物館施設がある中で、この場合は田んぼが外にあるわけですから、そこを活かせるのかなという感じですね。個人的には、火起こし体験を是非復活させてもらいたいなど。今の子供たち、火を扱う経験が圧倒的に乏しいですよ。ですから、自分の手で火が起こる感動って、非常に大事だと思います。状況を見ながら企画してもらえれば嬉しいと思います。他にございますか。

(弓削委員)

今の話で、自宅で参加できると良いという話は全く同感です。夏休みに私たちもお仕事体験を企画しました。コロナ禍で参加ができないので、お家で体験できるセットに切り替えて、費用も半額にしてお家でできる企画にする。例えば、お家で登呂体験、へそもち作り、チョコレートの銅鐸、お皿づくりとか、家にいて家族でできると静岡市だけじゃない形の繋がり方が広がるのかなと思います。取っ掛かりがあって、楽しみ方が繋がっていくと、やっぱりあそこに行こうとなり、登呂そのものの楽しさ、体験ができる良さが広がっていいのかなと。教材開発をいくつかパターンで貯めておいてもらいたいのかなと思います。

(堀切会長)

ありがとうございます。お家でできるキット。やり方と土器作りとか石器作りのキットを手に入れて、YouTube など見るとやり方が解説・実演されている。しかもそれをお家でできるだけでなくさらに博物館へ来てもらう仕掛けもあるので、これはできそうだし、おそらく効果もあるんじゃないかなと思いますけどね。ただ、具体的にどういう内容のものを作るかは、工夫が必要かと思いません。

(木山委員)

今今年のコロナ禍のスタート段階では、北海道博物館が中心になって、「おうちミュージアム」という企画を立てて、色んな博物館が参加しました。お家でプリントアウトしてできるような素材を各館に出してもらおうようなことをやっていますので、今ある既存問題に沿ってすごく活かせる企画だろうと思えますね。やはり貸出キットを作るのが重要だと。九州国立博物館さんとか、国立民族学博物館さんは、各民族の体験キットを作っています。それは学校や社会教育施設に送料だけで貸し出します。九州国立博物館さんも10コースくらいに分けて、縄文・弥生など時代ごとに分けてレプリカ・解説シート・クイズ形式のものなどに分けています。登呂も石包丁や稲、作業道具なりをセットにして、活用してください。学校の先生にお渡しして、学校の先生で自分たちの基準で色々と対策を取りながら、実物見せたりレプリカ見せたり貫頭衣着てみたりとか、体験をそれぞれしてもらいたい。そうすると、学校の先生も、学習指導要領に基づいた指導案にもなる。自分が教える立場ですから、フィットさせながらキットを使えて、実際の博物館見学といったことにも繋がっていくのではないかなと思います。

登呂の企画展、年4回のうち1回は巡回展パックみたいなのでまとめて、色んなところに貸し出してしまうのも手かなと思います。学校の空き教室、商業施設でも空いているイベントスペースに展示してもらおう。ふじのくに地球環境史ミュージアムさんがミュージアムキャラバンという形でやっていますが、今あるコンテンツをもう一度使う形でやりながら、かつアウトリーチ先が増える感じで考えるのがいいのかなと思いました。

(堀切会長)

ありがとうございます。色々な先例を調べていただいて、うまくここで利用できるようにものがあれば参考にして、使われるのがいいかなと思いますね。

最近「あつまれどうぶつの森」というゲームソフトが随分と人気があって、「あつまれどうぶつの森」の中に疑似的な博物館や疑似的な観光施設を作って、そこで色々なイベントをやる。ゲームの中にバザーを作る、それが意外と人気を集めている。藤枝の蓮華寺池公園が、「あつまれどうぶつの森」の中に蓮華寺池公園を作っていて、観光施設の取り組みもあつたりします。目新しいと

ということで新聞に載ったという部分もあって、実質的にどれくらいの効果があるのか、これから検証しなければならないだろうとは思っています。

(鈴木委員)

登呂の情報発信をしていくのに、Google ストリートビューを使う案が出ていて、例えば、それをここに来てくれた来館者の人たち、高校生・大学生のような年代の人にやってもらうことで、親しむとか愛着を持つことに繋がるのかなと思っています。例えば、しめ縄体験や一日登呂体験みたいなものを動画にして、登呂のホームページで発信していく。最近流行っている Vlog (ブイログ) という、ビデオのブログが流行っていて、実際に行った気持ちになれるものです。そういう人たちを巻き込んでいったらもっと面白いことができる、発信していくことで、将来来てくれる人を増やしていくことに繋がるのかなと思いました。

(堀切会長)

ありがとうございます。若い方たちの情報発信力は非常に魅力的なんですけれども、若い人たちに Vlog をやっていただくならば、博物館として、何か仕掛けられることはあるかですね。若者広報サポーターみたいなボランティアを募ってみるとか、あるいは高校とか大学とか、ヒントになるようなことがあれば。

(鈴木委員)

私は、昨年からは田んぼサポーターとして県立大学の学生 10 人前後の男女でワイワイとやらせてもらっていて、その子たちは、しめ縄や稲づくりをすごく楽しくやってくれています。今年は 15 人くらいで輪がどんどん増えていって、浜松文芸大学や静岡大学とか、色々な大学に増えていっているの、そういう輪を増やしていってグループを作りながらやっていくことしかできないかなと思っています。あとは、一日弥生人になりきる日を作って、貫頭衣着て、それを皆でやって写真を撮ったり、Vlog にして発信していくことができればと思っています。

(堀切会長)

そういう非常に楽しい活動が多くの人に伝わればいいですよ。それをどう情報発信していくかというところがなかなか難しいかなと思いますね。

(伊熊委員)

今の若い人の活用、静岡大学の登呂博物館ボランティア STV や城南静岡高校の地域貢献部、こういった人たちの活用をすれば、意外と道が開けます。

私の意見ですが、別紙1で、入館者数・来館者数が減って収入が大幅な減少に繋がりました、という表現があるんですが、私はこのコロナ禍の中で9万7千人も来ていただいて、入館料そのものは25%くらいの減で、収入だけ考えたらこのコロナ禍の中で非常に頑張っておられると思います。ただ、9万7千人に対して、本当にリスク管理ができていくかどうか、確認する必要があります。今回博物館使用料、観覧料が200万減っていますよね。これに対して、例えば、感染症対策の消耗品費が108万予算を付けたのに38万、備品購入費が315万予算をつけて160万で空気清浄機等を購入した。対策をさらにやりたいのに予算がなくてやれなかったということであれば、そこは課題だと思います。例えば、出入口の一方通行化という動線配備の対策のようなものはどの事業所でも同じですが、事業継続計画の中で、万が一のときにどう対応するかというリスク管理をしていく中では、博物館の感染症対策ガイドラインに沿った対策を取っているべきです。一番大事なのは、こういった対策を立てて定期的に確認をしていく、リスクチェックをしていくこと。例えば、20人を10人に減らしたけど、これが正しいのかどうか。ボランティアなどの意見を定期的に吸い上げて、フィードバックしていく会議が必要。万が一、1団体100人来て、体調が悪い子どもがいたときに、どうされているのか。その対応が機能しているかどうか。そういったチェックがあれば、それ以上はもう割り切ってしまう方がいいのではと思います。

(堀切会長)

コロナ対策と実績に対して、それがどうなったのかという検証の部分についての質問だと思いますが、事務局からいかがでしょうか。

(事務局)

予算・決算の差異ですが、アルコール消毒液は、結構、手指の消毒液に限ったものということで、割り振られてしまっており、今年度にも予算が繰り越されておりますが、なかなか手指の消毒液だけでは使い切れないくらい予算が付いてしまっているかなという面はあります。

消耗品費及び備品購入費の予算額と決算額の差に関してですが、国の感染症対策の補助金を活用させてもらって、実施をいたしました。国で 50%の補助金を出すという中で、購入できるものに関しては、ある程度指定がありました。消耗品に関しては、例えば、アルコール消毒液等となっておりますが、それ以外にも、消毒のための手袋、マスク等の購入が可能な範囲での商品というものを全部含めて、になります。あとは、当時コロナが流行したときに、予算要求用に見積もった金額から実際に購入したときには、定価が下がっていたため、全て使い切ることができずにこの金額になっています。

(伊熊委員)

買いたいけど買えなかったものはなかったということで、対策はやられていますので、是非ボランティアとか色々な方のリスクを再チェックしながら継続していただければと思います。登呂遺跡の特別史跡としての良さ、弥生時代のイメージ、平和な水田跡や集落跡、お祭り、祭祀などと、吉野ヶ里遺跡との違いを是非、情報発信していただければという要望です。

(堀切会長)

ありがとうございます。その前のコロナ対策の実績に対する評価、意見書という部分は非常に重要なことと思います。定員 20 人を 10 人にしたのが正しかったのかどうか。なんでそういう人数制限をしたのかという判断根拠、何に基づいてそうしたのか。あるいは、それをそうしたことによって実際どうだったのか。クラスターの発生はどうだったか。人数を減らすことによって、学習効果がこういうふうになりましたなど。イベントに関するガイドラインはもちろん色々あったと思いますが、博物館全体に関するガイドラインはあるのでしょうか。

(本野課長)

今、ちょうどガイドラインのお話が出ました。内閣府の危機管理から示されているものが基本になります。ただ、途中から緊急事態宣言が地域別にかなり分かれてきた。さらにまん延防止措置になったため、各県で考えなさいというところはかなり厳しい。美術館、博物館という枠組みのところに当てはまるカテゴリーがどのくらいなのかというと、基本的に利用施設の2分の1、イベントと同じようにという形だったと思います。ただ、感染症が増えたときには、さらにそれよりも気を付けなければならないということ。4月5月6月7月までは、県内の方よりも県外の方のほうが多いときもあるという状況で、ここに示させていただいた感染症対策を、博物館が自分たちの現場の中を考えて、第3波、4波までの状況も踏まえた上で構築していったというふうにご理解をいただければ。クラスターの発生もでなかったということであれば、これは多分間違いのないであろうという部分で、コロナ対策については、今日のご意見も参考にさせていただきながら、ご対応させていただければと思います。よろしくお願いします。

(堀切会長)

状況がここ2年間時々刻々と変わっていったって、国や県・市が出すガイドラインも、その都度変わっていくわけですね。現場としては、そういうものを掘り所に現実的に決めていかなければならない。例えば、生物観察で20人を10人に変更したのを、いつの時点の何を根拠に決めたのか、ドキュメンテーションを残しておくのがいい。後から説明を求められたときに、この時点ではこういう状況で、こういうガイドラインが出ていたから、こう動いてこういうふうになりました。その期間はこうだったというふうに、時系列できちんと説明できるようにまとめておくのが、大事なのかなと思います。それが一つの参考資料、財産として残りますので。他に何かいかがでしょうか？

(弓削委員)

外の遺跡が24時間公開になっていますね。例えば、早朝の鳥の音・夕焼け・虫の音の散策と、夜の博物館みたいな形で、観覧料の収入アップに焦点を絞る。コロナ禍でリフレッシュして免疫力を上げていくことが大事ですよと言われて

いる中で、この自然を街中で、日常の生活の中で時間が取れるという意味では、ニーズがあるのかなと思いました。あと、地域の住民が愛着を持てる、親しむというところで対象者を絞ってもいいのかな。発信するというところで、屋上からの富士山がとても良くて、今、帰って来られない方たちが地元の写真を上げてアップするというのもあるので、富士山を活かせる。あと、屋外だからこそ3密を避けながらできるイベントで、地域から来てもらいやすいようなものを、規模が小さくてもいいので、それを発信してもらうような仕組みをうまく作ってけるといいのかなと思いました。

(堀切会長)

ありがとうございます。渋谷先生、一言お願いします。

(渋谷委員)

バケツ稲を体験できるキットをさつき話に出ていたキットの一環として使う可能性もあるかなということをおもいました。田植え体験をしている子に渡すと、関心を持ってこのキットを使う可能性があるかなとか、あるいは、先生が自分の授業の中で子どもに育ててもらおうようにする、ということをおもった次第です。

(堀切会長)

ありがとうございます。おっしゃるとおり、登呂博は、これまで色々なことをすごく意欲的にやっていたので、これまでやってこられたことを活かしながら発展させるのが一番現実的なのかなという気がします。そろそろ時間になりましたので、皆様からいただいたご意見については、今後、博物館運営に活かしてもらえればと思いますので、お願いいたします。これで議事を終了させていただきます。事務局にお返しいたします。

(事務局)

堀切会長、司会進行ありがとうございました。皆様、非常に貴重なご意見ありがとうございました。こちらでうまく取り入れられるところを取り入れていく形でいきたいとおもいます。それでは、これをもちまして令和3年度第2回登呂博物館協議会を閉会させていただきます。次回は、令和4年のおそらく6月

頃にまた開催をする予定でございます。またご協力のほどよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございました。

(一同)

ありがとうございました。

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長 堀切 正人

委員 浜江 かさね
